



8月園だより

令和5年8月1日
目黒区立目黒本町保育園園長

晴天が続きプールや水遊びをしている子どもたちの歓声が園庭に響いています。気温が高くない早目の時間に戸外活動ができるよう、登園にご協力いただき本当にありがとうございます。

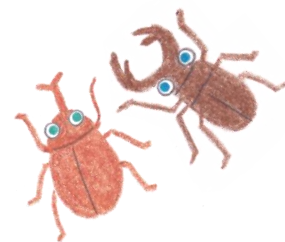
先日、5歳児の数名に混ざって3歳児クラスの子どもが散歩先の公園から連れて帰ったカブトムシやクワガタの飼育ケースを覗き込んでいました。「少しだけだよ。弱っているからね」と3歳児の子どもがクワガタに手を伸ばすと5歳児の子どもが心配そうに声をけるのですが、なかなか伝わらず手のひらに載せたり羽を撫でたり触りたい気持ちが勝ってケースに戻せません。とうとう、「もうだめだよ」と5歳児の子どもに飼育ケースに戻され悲しいような、名残惜しそうな表情をしていました。翌日、再び3歳児クラスの子どもたちが数名で飼育ケースを覗き込んでいると昨日、叱られてしまった子どもが友達に「だめだよ、だめだよ」と怒って伝えています。周りの友達理由はわからずなぜ触ってはいけないのか不満そうです。保育士が子どもたちに「あのね」と昨日5歳児の子どもが“虫を観るのはいいけど、弱っているから触らないでみるようにしてね”と言っていたことを伝えると、みな納得し別の遊びへと移っていきました。

伝えたい本当の言葉は目の前の場面だけではわからないことがあります。子どもたちの行動の意味を理解し、代弁できるように一人ひとりのこころの動きに寄り添っていきます。

行事予定

プール閉まり 3. 4. 5歳児
水遊び終了 0. 1. 2歳児

中旬 身体計測 全園児
避難訓練 全園児



～イメージをかたちに～

ぞう組(4歳児)

保育士や友達と一緒にレストランやジュース屋さんごっこをして楽しんでいると「お店でお買い物するならお金も必要だよ」と棚から紙とクレヨンを用意し、はさみを使いながら丸や四角に切っていきます。そして、時計やカレンダーを見ながら切った紙に数字を真似して書きお金を作っていきます。完成すると今度は「でも、ピッピッピってカード入れる時もある」「スマホでピッってするのもあるよ」とそれぞれが経験した買い物の場面を声にすると、次の制作意欲が湧いてきたようで保育士が用意した画用紙や折り紙、丸シールなどを手に取り「カードはこんな大きさにしようかな」「スマホの数字のボタン作らなきゃ」と一人ひとりがイメージするカードやスマートフォン作りを楽しんでいます。お金、カード、スマートフォン自分たちが必要だと思ったものが全て揃ったところで、お店に向かい「カードで払います」と自慢気にカードを出し、支払いを済ませる子や「プルルもしもし。今からお店行ってもいいですか」と電話で確認を取ってから出かける子など大人顔負けのシチュエーションで、友達とのやりとりを楽しんでいます。一人ひとりがイメージしたものや“これあったらいいな”と思う身近なものを形にする面白さを感じられるように一緒に遊びを楽しんでいきます。





子どもたちも少しずつ水の冷たさや感触にも慣れてきました。
乳児クラスの水遊びの様子です。



ひよこ組(0歳児クラス)

タライの水に手を伸ばし、光が差し込みキラキラしている水面に小さな手を浸しています。「お水つめたいね」「きもちいいね」と保育士が声を掛けると、“うん、うん”と応えるように笑みを見せ、今度は自分の濡れた手を保育士の手に載せ、“先生もきもちいいでしょ”と微笑みかけてくれます。保育士が水遊びの用意を始めると、子どもたちの視線はテラスに向けられ“はやくいきたい”とテラスを指さしアピールし水遊びを今かいまかと待ちわびている様子が伝わってきます。そして「どうぞ」と扉を開けると



“待ちました”と言わんばかりに一目散にテラスへと向かっていきます。最近タライを前にすると両手を勢よく水の中に入れて水しぶきを上げ、顔や体にしぶきかかっても保育士や友達と目を合わせて笑い合っています。また、保育士がジョーロやカップですくった水を上の方からジャーっとこぼすと手を伸ばして触ったり、掴もうとしてみたり、ペットボトルシャワーから出る水の下に手足を置き気持ちよさそうに遊んでいます。保育士や友達と一緒に遊びながら“なんだろう”“たのしそうだな”“触ってみたいな”と、小さな好奇心も芽生えてきています。ひとり一人の興味の示し方に合わせながら水とのふれあいを楽しめるようにしていきます。

りす組(1歳児クラス)

テラスでの水遊びを毎日楽しみにしている子どもたちです。ある日、自分の手のひらをそっと頬に当てていた子が「つめた〜い」と言って、保育士に伝えてきました。「気持ちよさそうだね、先生もやってみようかな」と保育士も同じように真似をしながら、「ほんとだ、つめたくてきもちいいね」と言っているとその様子を見ていた周りの子どもたちもやってきてタライを囲みながら頬に水をつけ始めました。水の冷たさを体で感じ、肩をすくめる子もいれば、冷たい掌が頬の体温を吸収するまで手を当てている子、パシャパシャと水しぶきを顔に付けている子と様々ですが、子ども同士、目が合った瞬間“気持ちいいよね”と共感するかのように嬉しそうな歓声とその場でステップを踏むように、全身で心地よさを表現しています。すると今度は1人の子がたらいの中に両手を入れ、パシャパシャとダイナミックに水しぶきを上げ始めると少しいたずらっぽい表情をしながらタライに集まってきましたみんなタライを囲みパシャパシャとしぶきが上がり始めると全身びしょ濡れになりましたが、それも楽しく水面をたたき勢いが増し、大喜びでしばらくかけ合って楽しんでいました。子どもたちの“ちょっとした気づき”に心を寄せながら水遊びを満足するまで楽しんでいきたいと思えます。



うさぎ組(2歳児クラス)

保育士がタライにビニール袋を沈めて持ち上げ見せると袋いっぱいに入りました。その様子を見て「あ、お水がつかまった」「大きいね」「ふうせんみたい」「○○ちゃんもやりたい」とビニール袋の変化に興味津々です。自分でもやってみようと同じように袋をタライの中に沈めますが、上手く入りません。保育士と一緒にひしゃくを使って水を入れると「やった大盛りだ」「重いね」と目に見える変化に大喜びしています。次の瞬間、持っていたビニール袋がタライに落ち“ジャッパーン”と音と同時に顔や体に大きなしぶきがかかり、「きゃー」と歓声もあがりました。その様子を再現しようとまたビニール袋に水を入れようとする姿が見られました。それなら今度は袋の口を結んで水風船を作ってみました。まずは保育士がタライに落として見せると大きな音としぶきが目の前に広がり大興奮、「先生貸して」「もう一回」と自分たちで何度も落とし、顔に掛かった水を拭うのも忘れて夢中になっていました。また水風船の感触も面白いようで、両手で揉んだりつついたり、叩いてみたりと形の変化や感触をたくさん味わう様子が見られました。毎日の水遊びを子どもたちが楽しめるよう工夫しながら一緒に楽しんでいきます。

